

漢字・ことば・文章に強くなる

はじめに

ビジネスにおけるコミュニケーションの大切さは多くの人が指摘することですが、とりわけ、「人と話す（ことばで伝える）力」「文を書く（文字で伝える）力」の必要性については、仕事を通じて日々実感しているという人が少なくありません。しかし、それにもかかわらず、「話したり書いたりするのはどうも不得意で…」と、ニガテ意識をなかなか拭えない人が多いのもまた事実のようです。どうしてでしょうか？

本テキストは、次の“？”について考え、その“答え”を探す試みのなかから生まれました。

- 「ニガテ意識」はどこからやって来る？
- ナニが「不得意」？ それはなぜ？
- 「不得意」を解消するにはどうすればいい？
- 即効性のある勉強法はないか？

第Ⅰ部は『ことばと漢字』。その第1章では、会話にも文章にも共通する「フォーマルなことば遣い」を学びます。とかく、ヤヤコシイと敬遠されがちな「敬語」の知識もここでスッキリ整理します。また、スピーチや作文をイキイキとさせる「たとえ（ひゆ比喩）」の一手法としての「慣用句・ことわざ」にも目を向けます。第2章は、「間違えやすい漢字」についての整理です。

第Ⅱ部は『文章術』。“速習・速成”をねらった内容に合わせ、題もあえて「文章力」ではなく「文章術」としました。“書く力は書いてみてこそ身につく”を合言葉に、ビジネスメール文案やスピーチ原稿づくりなど、実用性を重視したテーマに取り組みます。加えて、「文章力」を根本からじっくりと磨きたいという、より意欲的な学習を想定して「何を、どう書けばよいか」をテーマに、文章執筆の基本を学習する章も用意しました。こちらは、提案書など論理的な文章の執筆も視野に入れた内容です。

受講者の皆さん、それではさっそく第一歩を踏み出すことにしましょう。学習を終えたとき、あなたの「ニガテ」がきれいサッパリふっしょく払拭されていることを信じて。

目次

はじめに	3
第 I 部 ドリルで磨くことばの知識と漢字力	5
第 1 章 [ことば編] フォーマルなことば遣いとスピーチ・作文に使える慣用句 ...	6
1. フォーマルな言い方 — “ラ付き” ことば	8
2. フォーマルな言い方 — 敬語① (丁寧な言い方)	10
3. フォーマルな言い方 — 敬語② (自分側の行為についての言い方)	12
4. フォーマルな言い方 — 敬語③ (相手側の行為についての言い方)	14
5. 敬語には「2つの面」がある	16
6. スピーチ・作文に使える「慣用句」と「ことわざ」	20
• 自分だけの「慣用句」連想マップを描いてみよう	26
◆研究課題 1	27
第 2 章 [漢字編] 楽観はできない! 誤変換とケアレス・ミス	28
1. 使い分けていますか? 読みが同じで意味も似ている漢字	29
2. 区別できていますか? 同じ読みで意味が違う熟語	31
3. 正しく書いていますか? 形が似ていて書き誤りやすい漢字	33
• 手書きの際、書き間違えに注意しましょう	36
• 意味を混同しやすい漢字	37
• 使い分けを間違えやすい漢字	38
• 使い分けを間違えやすい熟語	39
• 自分だけの「漢字」連想マップを描いてみよう	45
◆研究課題 2	46
第 II 部 職場でキラリと輝く文章術	47
第 3 章 何を、どう書けばいい? —キラリと光る文章を書くために—	48
1. 「ねじれた文」「重複の多い文」「長過ぎる文」を書かない	49
2. 読点を、しっかりと打つ	52
3. あいまいな修飾・形容が文章を意味不明にする	54
4. 「推敲」をするときの留意点	56
5. 文章を書く手順	58
6. スキルアップ・アドバイス —「提案文」を書くときの留意点	62
◆研究課題 3	64
第 4 章 実技養成練習帳 —書く力は、書いてみてこそ身につく	65
1. スピーチ原稿を書く	66
• スキルアップ・トレーニング① 聞き手を意識して推敲する	67
• スキルアップ・トレーニング② スピーチに「変化」をつける	69
2. 作文・提案文を書く	73
• セルフチェック いまのあなたは、どのタイプ?	74
3. メールの文案を考える	78
• エラーを探せ! ① 顧客 (外部) あてのメール	82
• エラーを探せ! ② 上司 (社内) あてのメール	84
◆研究課題 4	87

第Ⅰ部

ドリルで磨く
ことばの知識と漢字力

第1章

[ことば編]

フォーマルなことば遣いと スピーチ・作文に使える慣用句

第1章のはじめに

フォーマル

「フォーマル」ということばから、あなたは何を連想しますか。たとえば、「フォーマル・シューズ」「フォーマル・ドレス」などファッション関係の品物を思い浮かべる人も多いのではないかと思います。このことばには、もう少し広い意味があるようです。

今回、あらためて、その意味を調べているうちに偶然に知ったのですが、「日本フォーマル協会」という団体も存在し、その団体によれば、「公式の場から社交の場において人間関係を円滑にするために決められた礼儀作法」——というのが、「フォーマル」の定義なのだそうです。

とはいえ、ここでは、それほど厳密な定義にもとづいて「フォーマルな」といっているわけではありません。いわば、「きちんとした」という程度の意味です。ただ、もう少しだけ説明を加えるなら、こうなるでしょうか。

仲間同士の“タメぐち”では差し障り^{さわ}があるような相手に対するときの礼儀正しいモノの言い方・文の書き方

きちんとした
言い方

具体的なケースとしては、電話やeメールでの連絡、および挨拶状や各種案内などの文書作成、さらに会議・打ち合わせ・面談などを想定しています。そうした場面で“きちんとした言い方”ができるようになるための学習が、この第1章の前半の主眼です。

“ラ付き”ことば
敬語表現

フォーマルなことば遣いとしての“ラ付き”ことばと敬語表現に焦点を当てて学びます。(本来、「ラ付きことば」というものはありませんが、フォーマルではないとされる「ラ抜きことば」に対応させて、仮に、“ラ付き”としています)

では本番に入る前に、少しだけウォームアップをしておきましょう。

ウォームアップ・ドリル

例文《A》は、親しい友人とのいわゆる“タメぐち”での会話例です。そして、それを「フォーマルな言い方」に変えた例が《B》です。敬語表現だけでなく、「ラ抜きことば」と呼ばれる下線部の言い方にも注目してください。

《A》

さっきは電話ありがとう。おとといの説明会には、忙しくて出れなかったけど、あさっての展示会で新製品の現物を見れるから、買うかどうか、それで決めれると思う。

「出れる」「見れる」「決めれる」は、いずれも「ラ抜きことば」。フォーマルなことば遣いとはいえません。

《B》

先ほどはお電話をいただきましてありがとうございます。一昨日の説明会には、多忙のため出られませんでしたが、明後日の展示会で新製品の現物を見られますから、購入するかどうかをそれで決められると存じます。

フォーマルな言い方は「出られる」「見られる」「決められる」です。どのようなときに「ラ」を付けるのか、付けないのか——しっかり整理しておきたいものです。

なお、第1章の後半では、^{ひゆ}比喩としての「慣用句」と「ことわざ」に 慣用句 ことわざ ついて学習します。

第Ⅱ部で学ぶことになる作文やスピーチ原稿の執筆に応用できるよう、ここで、一気に“持ち駒”を増やし、あなたの“ことばの世界”を広げておいてもらいたいと思います。

1

フォーマルな言い方 “ラ付き”ことば

「見れる」「食べれる」…を常用していませんか

あなたは、「食べることができるか」と尋ねるとき、「食べれるか」と言っていますか、「食べられるか」と言っていますか。また、「見ることができる」「調べることができる」「届けることができる」は、どちらでしょう。

ラ抜きことば

ふだん、「食べれる・見れる・調べれる・届けれる」と言っている人もいるのではないかと思います。そのような言い方は、「ラ抜きことば」と呼ばれています。「食べラれる・見ラれる・調べラれる・届ラける」から“「ラ」を省いてしまったことば”という意味でそう呼ばれるわけですが、そうした「ラ抜きことば」は、あらたまった場では望ましくないことば遣いだと思なされることがあります。

中には、『～られる』が正しい。ラ抜きことばにはまったく馴染めない」と“拒否反応”を示す人もいるくらいですから、ビジネスシーンでは、「ラ抜きことば」は用いないほうが無難です。

「ラ」が入らないパターンとは

では、「～られる」とすれば万事オーケーなのかといえば、そうでもありません。たとえば、「今日は早く帰ることができる」は「今日は早く帰れる」と言い、「早く帰られる」とは言いませんし、「速く走ることができる」も「速く走られる」ではなく「速く走れる」です。

敬語

もしも、それを「帰られます・走られます」と言うと、「～できる」とは違う意味の敬語になってしまいます。(敬語の「れる・られる」については p.15 で扱っていますから参照してください)

では、「食べる・見る」と「帰る・走る」とで、なぜ違うのでしょうか。また、「寝る」と「眠る」は同じか違うか、「帰る」と「変える」はどうか…。

図表1・1 目からウロコ!“ラ”の法則

【Aグループ】		
	(否定形にしたとき)	(「～できる」の形にしたとき)
走る	走ラ・ない	走・れる
帰る	帰ラ・ない	帰・れる
眠る	眠ラ・ない	眠・れる
座る	座ラ・ない	座・れる
取る	取ラ・ない	取・れる
切る	切ラ・ない	切・れる
売る	売ラ・ない	売・れる
乗る	乗ラ・ない	乗・れる
しゃべる	しゃべラ・ない	しゃべ・れる
【Bグループ】		
	(否定形にしたとき)	(「～できる」の形にしたとき)
見る	見・ない	見・られる
食べる	食べ・ない	食べ・られる
変える	変え・ない	変え・られる
寝る	寝・ない	寝・られる
起きる	起き・ない	起き・られる
上げる	上げ・ない	上げ・られる
下げる	下げ・ない	下げ・られる
調べる	調べ・ない	調べ・られる
伝える	伝え・ない	伝え・られる

どういう場合が「られる」で、どういうときに「れる」なのか、上の図表1・1に、比較表の形で整理してみました。

【Aグループ】のことばは、否定形にしたとき、「ない」の前にラがあることに注目してください。その場合には、「れる」。

【Bグループ】のことばは、「ない」の前がラではありません。その場合には、「られる」。

これが、ラ付き・ラ抜きを使い分けるときの一般的なルールです。迷ったときには思い出してください。